

6. 兵庫県，内海漁家の家計構造

姫路短大 末政 清子
香川 敦子
安野 礼

1. 昭和34年4月より，兵庫県水産試験場に於て，沿岸漁業集約経営調査が行なわれている。この調査に参加し，34年7月から35年6月までの内海即ち播磨灘に面する兵庫県の漁家の精密調査の中の家計簿を整理し，その家計状況を知る事。

2. 水産庁の統計調査用紙の形式と同様のものを用い水産試験場の抽出漁家に配布記入してもらったものを集め整理統計した。

3. 盛漁期に於ける収入は相当多く，給料生活者等からみれば全く羨ましい限りであるが，それだけに漁業支出もかさみ生活費についてのゆとりは少ない様である。また冬の閑漁期は全く赤字つづきで夏の盛漁期の貯蓄でまかなっている状態が明確になった。また漁家の因習等

により交際費の多い事も目立つ、大阪、神戸等の大都市をひかえこの明石地方の魚は特別鮮魚として上ものであるため魚の価格も高いので、漁家が現物消費する価格の見積りも相当高い。この関係がエンゲル係数にもひびく様である。漁家の家計の構造は他の職業の家計構造とは相当な違いがある。